

3 重点・努力点

重点・努力点	目標	具体的内容
①指導の充実	一人一人の生徒の実態や教育的ニーズを的確に把握し、系統的な教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態や障害特性から、的確な教育的ニーズを把握し、指導目標や支援の方法を設定する。 ○「理解できる方法」「要求等を表出できる方法」について、一人一人の生徒に応じた個別の支援方法を考案し、教育活動を行う。 ○中学部の全教育課程において、一人一人の実態に応じた学習の機会と、活動量を十分に保障して、教育活動を行う。 ○「小学部と中学部」「中学部と高等部」及び「中学部の各学年間」の系統性や段階性を考え、実態把握、目標設定、学習活動、評価等を行う。
②安全で安心して生活できる教育環境	生徒が、安全に安心して生き生きと生活できるよう、教育環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ○中学部段階として適切な言葉遣いや態度で接すると同時に、生徒の気持ちに寄り添った指導を心がけ、生徒が安心して生活できるようにする。 ○生徒の動きを想定して、日常的に安全点検を行い、問題点は速やかに教員間で報告し合い、改善する。 ○生徒が怪我をしたとき、体調不良時などは、担任・養護教諭・管理職(主事または副校長)の3名により、状況(怪我の程度・原因・場所・時間等)の把握を行い、慎重な判断に従って対応する。
③実践的指導力の向上	個々の教員や学部としての、特別支援教育の専門性や指導力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○「目指す生徒像」の達成に向けて、「指導の重点事項」を基に、指導計画の作成、指導目標の立案、指導・支援を考案する。また、研究や公開授業研究会等を実践の発表や省察、分析の場として活用し、個々の教員、また学部全体の専門性・指導力の向上を図る。 ○研究、研修等に取り組める時間を積極的に設定する。また、学部会等で報告する機会をもつなど、学んだ内容の共有を図り、日々の実践に活かせるようにしていく。
④保護者との連携	保護者との連携を深め、保護者との共通理解の基に教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の連絡帳や学級・学部通信等を用いて、生徒の状況や成長、課題等を家庭と共有し、「将来像」や「個別の指導計画」等を基に、指導・支援の方向性の共有を図り、目標を明確化・具体化して、家庭と連携した指導を行う。 ○教員間での連携を密に取り、共通理解の下、対応する。
⑤働きやすさと、教育的効果の適切なバランス	勤務時間、働きやすさ、教育の充実のバランスを意識した働き方に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○Teams、ミライム等を活用し、打合せ・会議時間の短縮等を図り、授業準備の時間を確保する。 ○「勤務時間」「働きやすさ」「教育の充実」のバランスを意識した働き方について、実際の勤務を通して、より良い方法を考え、働きやすい環境を実現していく。